

中国

中央経済工作会議（2023年12月）

イノベーション主導の成長実現で不動産等のリスク抑制方針

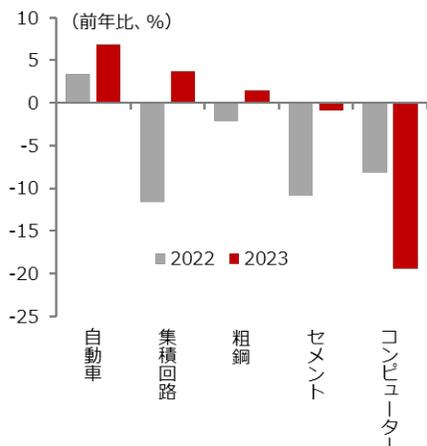
政策・経済センター
金成大介
03-6858-2717

1 中央経済工作会議の概要

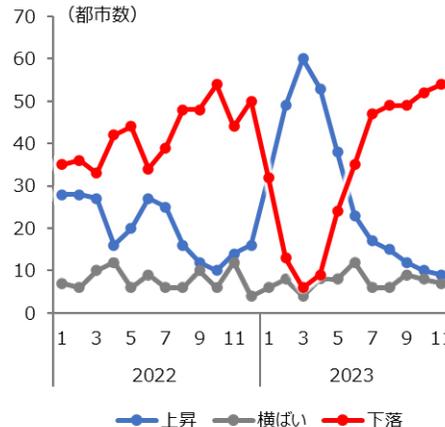
	概要
政策の総基調	<ul style="list-style-type: none"> 安定を維持しながら前進（稳中求進） 前進によって安定を促進（以進促穩） 先に新しきを作り、後に古きを打破する（先立後破）
3つの統一的計画	<ol style="list-style-type: none"> 内需拡大と供給側構造改革の深化の統一的計画 都市と農村融合に向けた都市開発・農村振興の統一的計画 質の高い発展と高水準の安全の統一的計画
9つの重点経済任務	<ol style="list-style-type: none"> 1. 科学技術イノベーション主導の現代産業システム構築 国内需要の拡大への注力 重点分野（国有企業改革・税制整備等）の改革深化 高水準の対外開放の拡大 5. 不動産・地方政府・中小金融機関等の重点リスク分野の予防・解決 三農（農業・農村・農民）問題への着実な対応 都市と農村の融合と地域の協調的発展 生態文明建設とグリーン・低炭素発展の推進 民生の確実な保証（社会保障制度の整備など）

出所：中国国務院HP、人民日報より三菱総合研究所作成

2 主な品目の生産（数量ベース）

注：2023年は11月時点の実績をもとに算出。
出所：Windより三菱総合研究所作成

3 70都市の住宅価格指数



出所：Windより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 12月11-12日、24年の経済運営方針を決める中央経済工作会議が開催された。今年 of 中国経済を着実な回復と総括しつつも、需要不足、過剰設備、社会的期待の弱さ、多くのリスクの存在、消費と投資の相互循環停滞、外部環境の不確実性を課題と認識し、克服の必要性を表明している。
- 24年の経済運営方針は安定重視の継続とともに、「先に新しきを作り、後に古きを打破（先立後破）」を追加。重点経済任務筆頭を科学技術イノベーション主導とし、5点目に不動産リスク等の予防・解決を指摘している（図表1）。

今後の注目点

- 一つ目の注目点は、重点任務筆頭のイノベーション主導により十分な成長を確保できるかだ（「先立後破」の「先立」）。共産党大会翌年開催の慣例に反して来年初開催見込みの三中全会の経済政策議論を経て明らかになるGDP成長率目標、成長確保に向けた具体的な経済政策には見極めが必要。
- 生産面では、自国内生産強化に取り組んでいる自動車・集積回路生産は24年に入り拡大、イノベーション主導の成長に一定の成果がうかがわれる。一方で、不動産建設との関連の深い粗鋼・セメント生産の回復は鈍いほか、コンピューター生産は輸出停滞から前年比マイナスが続いている（図表2）。
- 二つ目の注目点は、不動産リスク等の解消への取り組みペースだ。7月以降、政府は住宅購入規制緩和等の不動産支援策を繰り出しているが、住宅価格が下落する都市が増加している（図表3）。イノベーション主導の成長が期待を下回る場合には、不良債権が拡大するおそれがある。
- 不動産問題の抜本的整理には、政府管理下の再生ファンド活用が考えられる。中央経済工作会議で金融システムリスク防止と併せて違法な金融行為への厳格な取り締まりへ言及しており、債務者のモラルハザードにつながりかねない抜本的整理へ、今のところ中国政府は慎重姿勢を継続している。三中全会などで不動産問題の抜本的整理への慎重姿勢に変化があるかにも注意が必要だ。